

MARKING



ACTION



Equipment

※付属のガトリング・ガンは、ドラッツェ以外にも装備可能です。HGUCザクⅡF2型ジオン軍仕様(別売り)など、様々な機体への装着を試してみよう。

※こちらの写真は無塗装状態です。
※写真はHGUCザクⅡF2型ジオン軍仕様(別売り)を使用しています。

COLOR GUIDE

※よりリアルに仕上げたい方は、右の基本色をご覧ください。

※塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

※カラー配合は参考値であり、写真とカラーガイドの色は異なる場合があります。

※ABS樹脂部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はお勧めできません。

●本体等:

インディブルー(70%)
+ブルー(30%)
+ブラック(少量)

●プロペラント・タンクスラスタ:

グレー(70%)
+ブラック(30%)

●バーニア内側等:

モンザレッド(100%)
+ブラック(少量)

●モノアイ:

ピンク(100%)

●関節、動力パイプ等:

グレー(80%)
+パープル(10%)
+ブラック(10%)

●モノアイレール:

ブラック(100%)

●ガトリング・ガンセンサー部:

下地にシルバー(100%)
+クリアグリーン(80%)
+クリアブルー(20%)

REAR VIEW



DETAIL



MS-21C DRA-C

PRINCIPALITY OF ZEON MASS-PRODUCED MOBILE SUIT

© 創通・サンライズ

MOBILE SUIT
GUNDAM
0083
STARDUST MEMORY



MODEL NUMBER : MS-21C
TOTAL HEIGHT : 29.8m
WEIGHT : 23.9t
TOTAL WEIGHT : 49.0t
GENERATOR OUTPUT : 596kw
THRUSTERS TOTAL PROPULSION : 117,500kg
MATERIAL : SUPER-HARD STEEL ALLOY
ARMAMENTS :
BEAM SABER
3-BARREL 40mm VULCAN GUN
SHIELD

1/144 SCALE

HG
UNIVERSAL CENTURY

GUNDAM.INFO Search

www.gundam.info

バンダイホビーサイト▶ www.bandai-hobby.net/
Fees accrued by your communication and connection to the internet are
under customer's responsibility.
ホームページにアクセスする際の通信費等はお客様の責任となります。

BANDAI 2011 MADE IN JAPAN

●写真の完成品は塗装してあります。

0171632

BANDAI

MS-21C DRA-C

ジオン残党の“デラース・フリート”が、“ザクⅡF2型”のボディパーツに宇宙高速戦闘機“ガトル”のパーツなどを組み込んで生産した量産型MS。一撃離脱を身上とする突撃用MSとも言える機体で、その機体特性はむしろMAに近い。頭部の構造も、ザクをベースとしつつ、モノアイの可動範囲を拡大した超高速戦闘に対応した仕様となっている。デラース・フリートが潜伏していた繁留基地“茨の園”において量産された。とはいえ、ほとんどが既存の機体をベースとしているため、新聞発とは言い難い機体でもある（ダメージパーツのみならず、組み立て前のデッドストックから組み上げられた機体もあったとする資料もある）。直線的な加速性能が非常に高く、機動性は従来の宇宙戦闘艇を遥かに上回る。ただし、脚部の代わりに装備するプロペラント・タンクは、一応はAMBACユニットとして機能するもののMSには及ばず、それを補うため両肩部にスラスター・ボッドを装備している。当然のことだが歩行する機能はない。一年戦争終結間際のア・バオア・クー陥落寸前、戦線を離脱して暗礁宙域に離脱したデラース・フリートは、基本的にはデラースが管掌する艦隊が温存していた物資で糊口をしのぎながら、デブリとなったパーツや漂流艦などから資材をサルベージする事で戦闘能力を維持していた。その苦しい台所事情を象徴するような機体ではあるが、総生産数は30機程度とする資料もあり、制式番号などからこの機体に対する自負も垣間見える。MSの中でもっとも故障率が高く消耗部品が多い脚部ユニットを排除しているため、整備性や運用コストに関しては異常に優秀であると言える。ちなみに「デラース紛争」以降、主力兵器として前線に投入される事例はほとんど無くなったものの、U.C.0080年代後半の“グリプス戦役”時には、アクシズに回収された機体が確認されているほか、U.C.0090年代後期にも“袖付き”によって哨戒・偵察用に稼働していた機体もあり、耐用年数にも特筆すべきものがあるようだ。

SPEC

型式番号：MS-21C
全高：29.8m 本体重量：23.9t 全備重量：49.0t
ジェネレーター出力：596kw
スラスター総推力：117,500kg
装甲材質：超硬スチール合金
武装：ビーム・サーベル 3連40mmバルカン砲
シールド（ガトリング・ガン）

肩部スラスター・ボッド

ショルダーアーマーのジョイントやフレームを流用して取り付けられた汎用型のスラスター・ボッド。脚部の換装によって低下した機動性を補うため増設された。

3連40mmバルカン砲

肘から先をバルカン砲と換装した武装。機関部とマガジン、センサーなどを腕部の最終装甲と組み合わせて一体化してある。

Zガンダム劇場版で下の様な色の機体も存在する。この画稿を参考にカラー再現してみよう！

バックパック

ガトル戦闘機のメインエンジンをユニットごと背部に装備したもの。左右の武装パイロンと制御ブロックを取り外し、スタビライザーなどを増設した上で、逆に取り付けた恰好である。固定式のバーニアスラスタノズルは可動式の大形ジンバルのバーニアと換装されている。

ガトリング・ガン

U.C.0090年代後半に跳梁したジオン残党の“袖付き”が運用する際に装備していた武装で、3連40mmバルカン砲の代替武装として供給されている。装備するセンサー類にアクシズ系の技術が導入されているため、本体とリンクすることでセンサーの有効範囲が大幅に拡大する。実際には武装というよりも哨戒、偵察任務に最適化するための装備である。

シールド/ビーム・サーベル

戦艦の装甲板を流用したシールドプレートに小型ジェネレーターとエネルギーCAPシステム、冷却ユニットを組み込むことでビーム・サーベルをドライブしている。本来、本機のジェネレーター出力ではビーム・サーベルの運用は不可能である。

プロペラント・タンク/スラスターユニット

ガトルの左右の武装ユニットの内部パーツを組み替えて一体化したもの。プロペラント・タンクの先端にスラスターを配置する事で、可能な限り高い運動性と旋回性能を確保している。

※この商品には、「HGUC ドラッツェ」が1セット入っています。



●写真はイメージです。

MS-21C ドラッツェ

ドラッツェは、OVA作品「機動戦士ガンダム0083 スターダストメモリー」及び、劇場版「機動戦士ガンダム0083 ジオンの残光」「機動戦士ZガンダムIII 星の鼓動は愛〜」「機動戦士ガンダムUC」などに登場する量産型MSである。U.C.0083年10月23日、キンバライド基地から打ち上げられたRX-78GP02A（ガンダム試作2号機）を積載したHLVは、地球の周回軌道上でガトー艦隊によって回収された。そして、駆けつけた連邦軍第1軌道艦隊所属の偵察戦隊と交戦状態に突入する。メガ粒子砲を斉射したムサイのブリッジで士官の報告が響き、将官の命令が下される。「敵、2番艦大破」「よし、ガトー少佐の回収作業はどうか」「あと80秒」「艦隊反転！全力射撃、15秒後。ドラッツェを前面に展開させろ!!」HLVからGP02Aを載せ換えるアナベル・ガトーの眼前を、数機のドラッツェが飛び過ぎる。深い蒼に彩られた機体は、真一文字に敵艦隊を目指す。ほどなく残り2隻のサラミスは爆散し、連邦軍の偵察船隊は星の海の薄屑と消えた。そしてガトー艦隊は、連邦軍の追跡を振り切るための複雑な軌道を経て、デラース・フリートの拠点、暗礁宙域の繁留基地“茨の園”に帰還するルートへと向かう。一方、GP02A追撃の任務を継続すべく宇宙へと上がったアルビオンは、2隻の味方艦と合流したのち、ガトーが逃げ込んだと思しき暗礁宙域の搜索を開始する。果たして……!?

HGUC
シリーズラインナップ

※この商品には、「HGUC ドラッツェ」が1セット入っています。

連邦軍 vs. デラース・フリートの激戦をHGUCで確認せよ!!

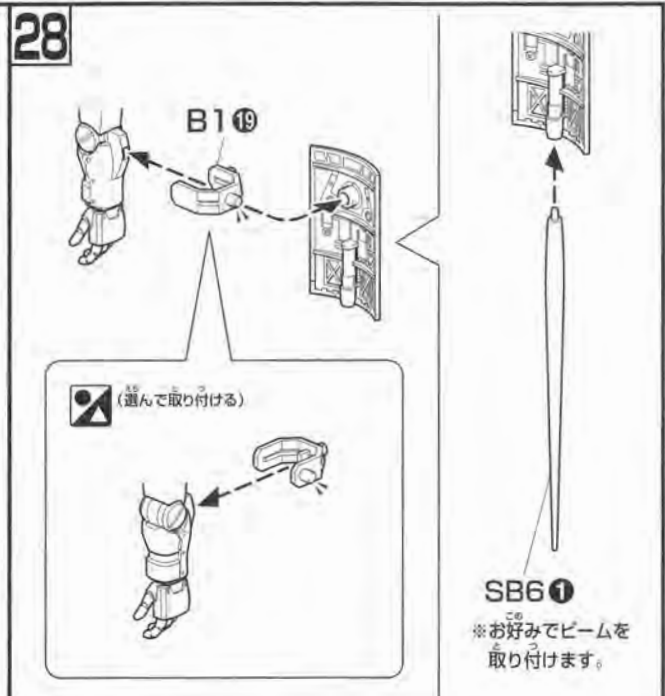
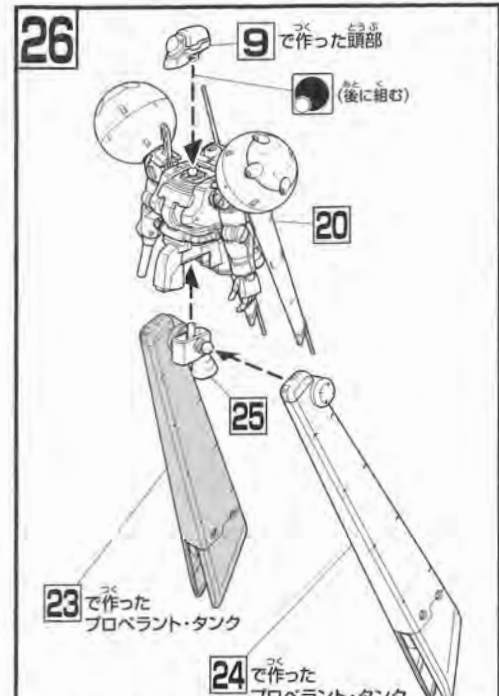
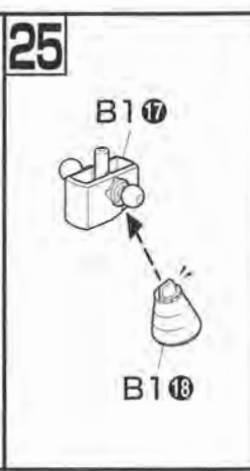
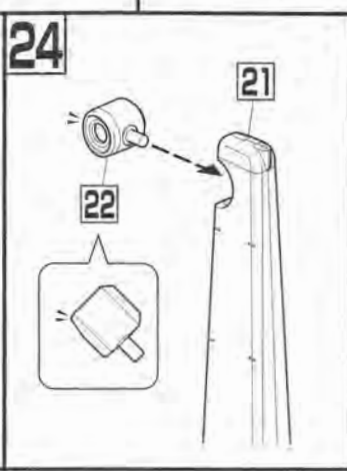
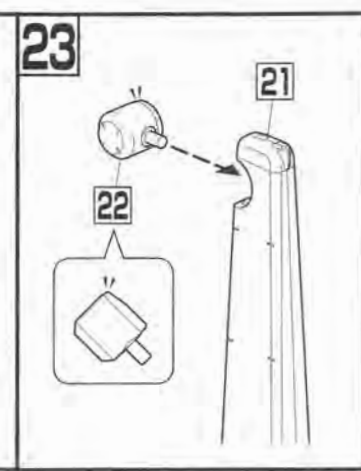
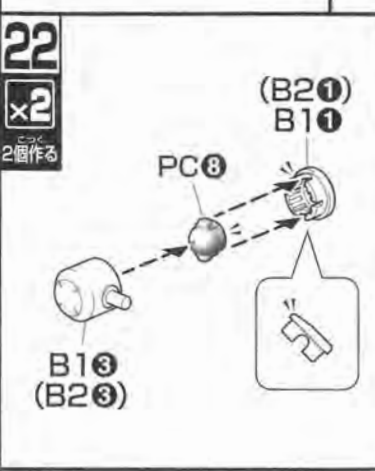
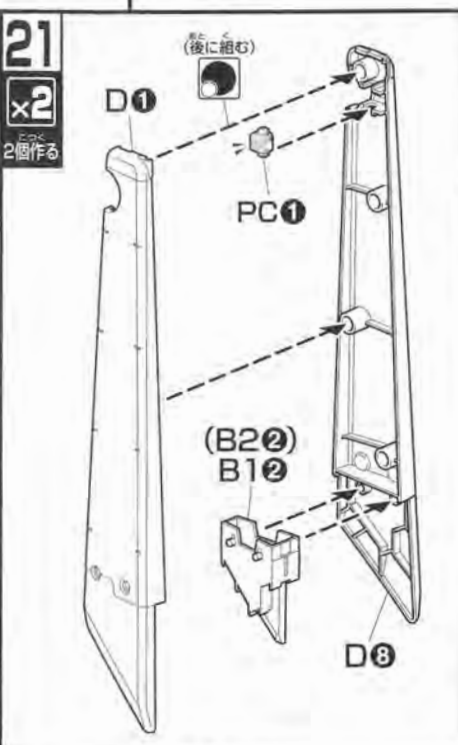
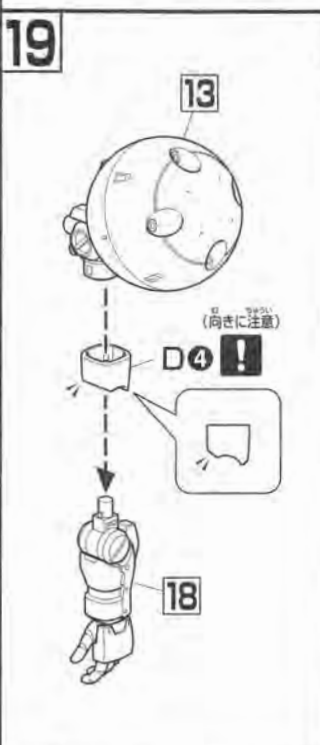
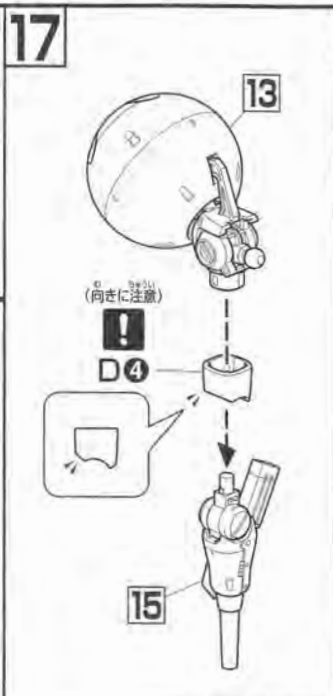
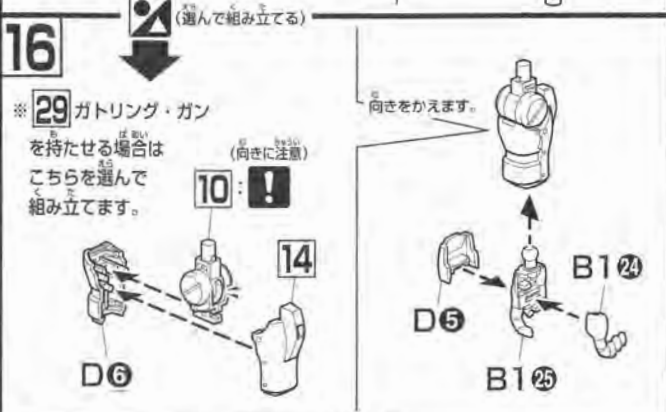
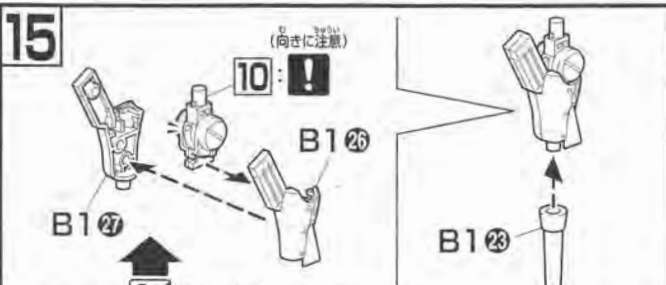


14
x2
でPC
2台作る

PC⑤

D7





29 **16** を選択した場合取り付け可能です。

